

立山雪の大谷ウォーク&浄土山山行報告

【山行日】2024年 4月 27~28日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 2:30

【費 用】マイカー1台 : 32,000円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:吉田

飯野、鈴木ミ、福島、

【コースタイム】27日:岩舟支所 P2:30=立山駅

P6:30/7:40++室堂ターミナル 8:40/9:00~

雪の大谷ウォーク 9:00/10:00~みくりが池温泉

10:30/11:10~室堂山荘 13:00

立山雪の大谷ウォークのリクエストがあり、
残雪の浄土山と併せてGW前半の連休に計画した。

立山駅から室堂のWebチケットを取れなかったため、岩舟支所を2:30に出発する。北関東道から上信越道、北陸道を走り立山ICを出て、富山立山公園線を走り立山駅の駐車場に車を止める。



準備を整えて立山駅に行くと、チケット売り場の列は20人くらいしか並んでいない。7:40発のチケットを購入出来、待合所で1時間程待つことになる。それぞれがトイレを済ませたり、朝食を食べたりして過ごし7:40発のケーブルカーに乗車する。美女平でバスに乗り継ぎ、室堂平まで1時間ほどのバス旅が始まる。天気が良いので景色が良く見られ、立山スギや称名滝、弥陀ヶ原の雪原や薬師岳、大日岳など次々と絶景が現れ、飽きることなくバス旅行を楽しめた。

室堂に着きバスターミナルの待合室で雪の大谷ウォークの開場を待つ。コインロッカーにザックを預け、身軽になって雪の大谷ウォークに臨む。前は9:30から開場の為バスターミナルいっぱいになり人が溢れ、入場するのに時間が掛かったが、今年は9:00に開場となり並ぶことなくすんなりと入場

できた。見学者もまだ少なくゆっくり見学しながら歩け、写真を撮るのも待つことなく撮れた。雪の大谷最高地点(14m)標識前で記念写真を撮り、剣岳や大日岳の展望所で大パノラマを楽しんだら、ここから10時まで自由行動にする。10時に室堂平に集合し、みくりが池温泉に向かって散策する。広大な雪原を自由に歩き、何処を見ても絶景が広がり、皆さん大興奮。明日登る浄土山や主峰雄山、真砂岳や別山から剣岳、大日連峰と連なり、まさに絵葉書の世界が広がっている。



景色を楽しみながらルンルン気分で歩き、みくりが池の神秘的なブルーが素晴らしい。半分雪が残



っているの薄いブルーになっていて、夏の色とは全然違い感動した。みくりが池温泉前のベンチにザックをデポし、周辺を散策して雷鳥を探して歩く。直ぐにお温泉の側で1羽が見つかり、初めて見る冬毛の白い雷鳥に大喜び。みくりが池の周りを歩くともう1羽見つかり、スマホやカメラで撮るとハイマツの中に隠れてしまう。雪の中にもう1羽見つけ、目の周りが赤く縁どられている。目の縁が赤いのは繁殖期のオスの特徴で、メスに対してアピールしているようだ。大きなカメ

ラを持った男性が、「繁殖期だからこれだけたくさん見られるんだよ」と教えてくれた。冬毛の雷鳥をカメラに収め、満足してみくりが池温泉のベンチに戻りランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、雪山の絶景を眺めながらのランチは実に美味。ランチが済んだら今宵の宿「室堂山荘」に向かい、雪の登山道をつぼ足で歩いて行く。スノーシューを付けて歩くパーティもいたが、我々はこのくらいの雪はつぼ足で充分歩ける。前方に明日登る浄土山や立山の盟主雄山を見ながら歩き、1時間足らずで室堂山荘に着く。受付を済ませたら部屋に案内され、男女2部屋に分かれて休憩する。I野さんはもう少し歩きたいと、山荘の周辺を散策に出かけた。3時過ぎから反省会が始まり、ビールを飲みながら談笑する。話題は何と言っても室堂平からの絶景で、「こんな素晴らしい景色は初めて見た!」と感動していた。「明日の浄土山山頂からの景色は、もっと素晴らしいよ」と言うと、「今回は思い切って参加して良かった」と喜んでいた。5:30から1階のレストランで夕食をいただき、明日に備えて早めに床に就いた。



28日:室堂山荘 7:35~一ノ越 8:30/9:00~浄土山 9:50/10:20~カルデラ展望台 10:50/11:00~室堂山荘 11:30/12:30~室堂ターミナル 12:40/13:00++立山駅 13:55/14:30=岩舟支所 P18:40

朝起きてカーテンを開けると快晴で、6:30から朝食をいただき出発の準備をする。要らない荷物はフロントに預け、外のベンチでアイゼンを付けストレッチを行なったら出発する。山荘の先からしっかりとトレースがつけられており、一ノ越に向かって雪の急斜面を登って行く。無風快晴で絶好の登山日和恵まれ、素晴らしい雪山の景色に皆さんの頬もゆるんでいる。



雪の斜面を直登するののできつかったが、時折白い雷鳥が登山道に現れ疲れを癒してくれる。さらに登るともう1羽現れ、我々を案内するように先を歩いている。すると突然飛び立ち200mくらい雪の



斜面を飛び、「ヘエ～雷鳥は飛べるんだ！」と驚きの声が上がった。雪の急斜面を登るのは息が苦しく、途中祓堂近くで小休止して呼吸を整える。ここからいっきに100m以上登り、一ノ越まで登り上がる。一ノ越山荘前のベンチで休憩し、南側に広がる槍ヶ岳や穂高連峰の絶景を心ゆくまで楽しんだ。今年は雪が少なく、雄山への登山道は雪がほとんど無く、山頂直下まで夏道で登れそうだ。雄山に登りたい誘惑に駆られたが、グッと堪えてさあ浄土山に向か

おうとザックを背負うと、F島さんが体調が悪くトイレに行きたいという。外のトイレは雪に埋まって使用できず、靴を脱いで一ノ越山荘のトイレを使わせていただく。30分遅れて一ノ越を出発し浄土山へ向かう。I野さんが「浄土山までは全部雪が有るのですかね？」と心配そうにつぶやいていた。「大丈夫浄土山は山頂まで雪がつながっているから」と言うと、登り始めて直ぐに茶色い山肌が出ていた。「アイゼンを外して登ります」と声を掛け、アイゼンを外して夏道を登って行く。今年は4月の気温が平年より2.78度も高く、4月に入っていっきに雪解けが進んだようだ。



高度が上がるにつれ展望が良くなり、最高の景色を楽しみながら高度を上げて行く。山頂直下の急斜面は雪がたくさん残っており、再びアイゼンを付けて登って行く。雪の急斜面を登り上がると山頂



の一角出て、広く平らな展望台になっている。ベンチに腰を下ろし我々だけの貸切の絶景を、ご褒美のどら焼きをいただきながら堪能した。F島さんにあれが薬師岳と五色ヶ原だよと教えて、赤い三角屋根の五色ヶ原山荘を見つけ感動していた。まさに360度の大大パノラマを堪能し、皆さんの笑顔がはじけて至福の一時を過ごした。下山は往路を戻る予定だったが、「今日は天気が良いので、北側の室堂山の方へ下りますか？」と聞くと、「ハイ、下りたいです」と元気な返

事が返ってきた。「急斜面の下りなので慎重に下って」と告げ、浄土山山頂地点を踏んで、北側への斜面に降りて行く。すると又雪が無く大きな岩がゴロゴロした道になり、アイゼンを外して岩の間を下って行く。慎重に下って行くと雪の急斜面が現れ、狭い場所で再びアイゼンを装着する。

アイゼンを付けて降りようとする、7人パーティが登って来た。場所が狭いので我々が降りるのを



待つという。40度近い急斜面のトレースが無い雪面はとても怖く、アイゼンを効かせながら一步一步慎重に下る。7人パーティを過ぎたらトレースに戻れ、少し安心して下って行く。標高差200mの急斜面は高度感があり、鞍部の平らな場所に出て安心した。元気な3名に立山カルデラ展望所まで行くことを進め、我輩とF島さんは室堂山荘に向かって下山開始する。景色を楽しみながら雪の斜面を下り、アツと言

間に室堂山荘に到着する。外のベンチでアイゼンを外して3名の到着を待ち、全員揃ったら山荘に入って預けた荷物を受け取る。ロビーで荷造りをして、トイレを済ませたらレストランでランチをいただく。それぞれがカレーや牛丼、中華丼をオーダーし、浄土山登山の話しながら美味しくいただいた。今日の浄土山山行はとても素晴らしかったよう

で、皆さん笑顔で思い出話が盛り上がっていた。ランチが済んだら室堂山荘を後にし、室堂バスターミナルへ向かう。バスターミナルへ着くと直ぐにバスが出ると言われ、列の後ろに並んで待つ。12:40発は我々の前で満員になり、その後は団体客が優先で案内され20分程待たされた。帰りのバスも展望が良く、大日岳や薬師岳、鍬崎山など見ながら楽しく過ごせた。美女平でケーブルカーに乗り換え、予定よりも少し遅れて立山駅に着く。



立山駅の売店でお土産をゲットし、駐車場に戻って靴を履き替え帰路に着く。北陸道から上信越道、北関東道は順調に走り、予定より早く岩舟支所に帰着した。